

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 黒澤 敏行
 事務局長 渡部 浩士
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 (株) 有 伸 商 会
 TEL (011)814-6211

第41回全国学校図書館研究大会 富山・高岡大会に参加して ～これからの学校図書館をデザインする～

北海道学校図書館協会 研究担当理事 佐藤 敬子
 ((公社) 全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー)

8月8日から10日まで3日間にわたって富山市、高岡市の2会場で第41回全国学校図書館研究大会が開かれました。富山市の会場は富山県民会館、高岡市の会場はウィングウィング高岡です。8日の全体会を始めとして138の分科会や視察が行われ、全国各地から約1300名が集まりました。

北海道からも講師や発表者、司会者等も含めて道内各地からの参加多数、皆それぞれに研修に励んでいました。

私も拙著『楽しく進める「学び方の指導」——中学校司書教諭のあゆみ』(全国SLA 2016年)をもとにした同名の分科会での講義と、ワークショップ「中1に戻ってLet's challenge?情報カードの作成と参考図書を活用法」の講師を務めましたが、どちらも熱心に参加していただきました。ワークショップは昨年度の北海道SLAの研修講座で発寒中学校図書館を舞台に行ったのと同じものです。今回は高岡市立中央図書館で行うということで、事前に蔵書を調べてそれに合う問題を作って臨みました。参加者がじつに楽しそうに、時間の過ぎるのも忘れて取り組んでいたのが印象的で、ここでもほんの少しだけ「学び方の指導」の輪を広げられたかな…と嬉しい気持ちでした。

参加者として一番楽しみに臨んだのは、最後のコマの「学び方の指導体系表の見直し」の分科会。2004年4月1日に全国SLAが制定した現行の体系表を改定するというので、それについての第一次案が出され、意見を…という分科会でした。思えば私は2004年の草津大会で、できたばかりの現行の体系表についての分科会に出たのです。そこから学び方の指導を全校で計画的にしないでと、いろいろと実践を重ねたのでした。それが今、その次の改定のための分科会にまた参加しているなんて、本当に感慨深いものでした。いろいろな質問・意見が出され、私もいくつか出ささせていただきましたが、これからどのように反映され、よりよい体系表が出来上がるのか楽しみです。

全体的には、最初の記念講演(金田一秀穂氏)からAIの話題が出ており、総じてこれからの急激な社会の変化に応じた学校図書館(その指導も含めて)はどうあるべきかという点がひとつの切り口だったように思います。また、司書教諭、学校司書等、学校図書館スタッフが完璧な形ではなくとも増えつつある現在、どのように協働

していくかということ、また、そういう学校図書館を支える支援センターの働きなども注目される点でした。「チーム学校図書館」を作るためには、館長である学校長を始めとした校内組織や校内の協力体制は不可欠です。その中でそれぞれが各自の仕事をきっちりとした上で協働することが大切なのです。そしてそれを支えてくれる支援センターの存在は大変重要になります。そういうことを考えさせられる分科会も多かったように思いました。

その他、出たくても出られなかった分科会もたくさんあり、じつに興味深いものでした。これから送られてくる集録を楽しみにしたいと思います。

さて、夜は…。

1日目の夜は「学校図書館を語る夕べ」で全国の仲間と集い、懇親を深めました。次回開催地の香川県SLAの方々が、いざ!という気概を持って臨まれていたのが印象的でした。

また、2日目の夜は恒例の北海道の「のみましおん」。今回も皆で語らうのが楽しみで来ました!と嬉しそうにおっしゃるK先生。皆で反省や報告も含め大いに語りました。北海道は広く、普段はなかなか会えませんが、こういう時にこそ交流し、語り合いたいものです。2年後の香川大会でもきっと開催されるであろう「のみましおん」。ぜひ皆で行って昼はしっかり研修し、その後で大いに交流しましょう。

それにしてもやはり全国大会の雰囲気はよいものです。

新しいことを学ぶ以外にも、全国各地の実情を知ることでもあります。今回初参加のA先生も、こんなに楽しいなんて!と感激していらっしゃいました。次回もぜひたくさんの方々北海道から参加して研修し、この雰囲気を感取っていただければと思います。



高岡市立中央図書館でワークショップ参加者が熱心に問題に取り組んでいるところ。

第41回 全国学校図書館研究大会 富山・高岡大会に参加して**第41回全国学校図書館研究大会 富山・高岡大会に参加して**

北海道学校図書館協会 研究部長 山田 佳子
(札幌市立上白石小学校 司書教諭)

8月8～10日の3日間にわたり、第41回全国学校図書館研究大会が富山市、高岡市を会場に開催されました。今回の大会テーマは「これからの学校図書館をデザインする」。全国各地の様々な取り組みを聞かせていただく中で、どのような未来図を描くことができるのかを楽しみにしながら参加しました。

今回は、初日に「司書教諭の活動」の分科会で発表させていただきました。これまで、担任との兼務で（今年度は6年家庭科専科も！）、なかなか思うように進まないながらも続けてきた活動をまとめる良い機会となりました。ポイントにしたことは、学校図書館の活用を教育課程の中に位置付けて授業を支えていくことと、記録を積み重ねていくことです。本校での計画と授業実践を基に、お話させていただきました。

講義「読書バリアフリーに学校図書館は、どう対応すべきか」では、文字を拡大した図書や分かりやすい文章に直したネットニュースなど、実物を交えながらお話を聞くことができました。障害のある方ばかりではなく、高齢者や外国の方にも有効であることが実感できました。また、これからの学校図書館を運営するにあたっては、「見えない障害」や多様性についての理解をもっと深めていく必要性を感じました。

また、問題提起「学び方の指導体系表の見直し」では、2004年に作られた体系表の見直し作業が始まっていることを知りました。まだ意見を集約している途中、というところでしたが、今の時代に合った指導の在り方はどうあるべきかを考えさせられました。急速にAI技術が進歩し、小学校からプログラミング教育が取り入れられることになった今、子どもたちはどのような技能を身に付けていかなければならないか、また、学校図書館はどうあるべきか。これからの改訂の行方をしっかりと見ていきたいと思えます。

その他にも、全国各地のたくさんの方々の実践を聞きました。目の前の子どもたちにできること、これからの学校図書館づくりに生かせること。たくさんの方々の財産を得ることができました。自分自身の実践につなげるとともに、北海道全体へと広げていきたいと思えました。

霧が晴れるような3日間

北海道学校図書館協会 研究副部長 浅村 麻姫子
(札幌市立新陵中学校・宮の丘中学校 学校図書館司書)
(札幌聖心女子学院中学・高等学校 非常勤講師)

3回目の全国大会の参加です。開会式・記念講演と8つの分科会に参加しました。全国の様々な実践、熱心な取り組みや工夫に触れ、AI時代を生きていくための学びに学校図書館の活用は必然であるということを再確認しました。

今回は、昨年札幌大会での自身の提言をベースにした実践発表をしました。学校図書館利活用の先進地である荒川区教育委員会の学校図書館支援室長から、「年度当初打合せシート」の内容や札幌市学校図書館司書の思いについて、普遍的な価値がある資料だという主旨のコメントをいただくなど、全国からお越しの参加者に興味を持っていただけたことはうれしいことでした（シートは道SLAのホームページからダウンロード可能です）。

司会を担当した「情報活用力の指導（小）」分科会では、京都市立唐橋小学校吉田夏紀先生のご発表に大きな刺激を受けました。市教育センターで学校図書館教育の研究をされた後、「小・中9年間で系統的に情報活用力を育成する」実践を現任校でされているとのこと。図書館資料とタブレットを活用した、学校図書館での算数の授業の様子も動画で紹介されました。京都市では市教研の図書館教育部会が毎年「読書ノート」（学び方の指導に関する内容も含む）を改訂し、それを市教育委員会が製作して全小・中学生に教科書とともに配布して有効活用を呼びかけているということで、それもすばらしいと思えました。

ほかにも「情報リテラシーを育てる学び方指導体系表の活用（島根県松江市）」「校長のリーダーシップと授業における学校図書館の活用（石川県白山市）」などの分科会に参加し、大いに学ぶことができました。

全国各地で同じような悩みを抱えつつも、先進的な実践が行われている地域があります。その発表から、学校図書館の利活用促進のための「共通の仕組み」が見えてきました。「学校図書館支援センター」のような組織が教育委員会直轄で置かれ、そこに見識と熱意のある指導員がいて、指導主事とともに学校を支援するということが、司書教諭や学校図書館を担当する先生方が連携するきっかけとして、市教研のような公の研修組織が重要であるということです。また学校図書館の「館長」である校長先生のリーダーシップも重要だと感じました。学校内で、また学校を超えてつながること、仲間とともに実践することの意義を再確認しました。日頃思っていたことが確信に変わり、霧が晴れるような思いをした3日間でした。

立山を仰ぎ見る富山から～全国大会での発表を終えて～

北海道学校図書館協会 研究部幹事 安藤 理恵子
(札幌市立もみじの森小学校 教諭)

このたび初めて全国大会に参加することができました。大会日の富山市は、思った程の暑さもなく、過ごしやすいうちで美しい立山連峰を仰ぎ見ながら、清々しい気持ちで大会に参加することができました。

今回は、特別支援学校・学級の読書指導の分科会で、『特別支援学級における読書指導～朝読書を利用した読書指導』という題で以下の発表を行いました。

- (1) 読書指導を朝読書の中で継続的に行うことの有効性について
- (2) 子どもの読書に関わる実態と教師の願い
- (3) 朝読書を利用した読書指導の実際

①教師による読み聞かせ②読み聞かせの読書記録ノート③アニメーション④自分から進んで本を楽しむ環境作り⑤図書館探検⑥子どもによる本の紹介

- (4) 成果と課題

(3) では具体的な実践として、まず読み聞かせに特化した読書ノートの実践を発表しました。実際に子どもが書いたノートを回覧し、書くことが苦手な児童でもなるべく抵抗なく書くことができるような工夫について話しました。アニメーションの実践紹介では、1) 絵を読む2) 言葉を楽しむ3) お話を再構成するの3つを写真を交えて発表しました。

成果として、読み聞かせや図書館探検から子どもたちの本に対する関心が広がったこと、環境を工夫することで自分から進んで本を手取るようになったこと、本を通じて友達同士繋がるが多く見られたことなどを上げました。

本の選書に関してLLブックは使用するのかの質問があり、LLブックそのものを知らなかった私には、大変勉強になりました。またアニメーション自体を知らない方もいらっしや、関心をもっていただくことができました。

この大会に参加する中で、全国大会というものがいかに貴重な交流の場であるかを実感し、次回の大会にも是非参加してみたいという思いがわいてきました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただいた道SLAの皆様をはじめ、関係の皆様にお礼を申し上げます。



全道研究部長会から

北海道学校図書館協会第9回全道研究部長会が9月22日(土)、23日(日)の両日、かでの2・7で行われた。

1日目の前半には、平成31年度に開催が予定されている北海道学校図書館研究大会旭川大会についての大きな概要が審議された。旭川支部の石ヶ森孝順大会事務局長より大会の概要やこれまでに内定している大会日程などが提案された。記念講演者の選定やセッションのなどの内容、会場間の移動について意見が出され、来春1月の研究部長会での運営事務局からの再提案を待つこととなった。後半には、旭川大会におけるテーマ・研究内容の審議が行われた。旭川支部の研究部長・吉井華菜先生からは、旭川大会の研究テーマならびにテーマ設定の理由の原案が発表された。これからの学校図書館の在り方を展望した上で、研究主題・副主題の意図する内容が、より明確に表われる文言への修正を求める活発な意見が出された。

2日目には、道内各支部からの活動状況の報告が行われた。札幌支部からは、本年度の各種研修会や授業研究の予定などが報告され、あわせて夏期休業中に行われた図書館クリニックの様子が志村知子先生より報告された。函館支部からは、1年を通して計画的に進められている各種研修会や授業研究が加茂有希子先生より報告された。学校司書も配置され始めたことも報告されたが、一方で図書館活動に広がりや深まりが見られない支部内の現状も報告された。小樽支部の田代和花子先生からは、小樽市立図書館が市内小中学校に向けて授業づくりを支援する「スクールライブラリー便」を充実させていることを紹介、あわせて拠点校方式で学校司書が市内に5名配置されたことも報告された。空知地区支部の古関亮子先生からは、栗山町が町立図書館から学校司書を派遣し町内全校を巡回し始めたことや、岩見沢市内の小中学校では順次データベース化が進められていることも報告された。旭川支部の吉井華菜先生からは、支部内では学び方指導を中心に研究活動が進められていること、また7月に行われた「知って生かそう！学校図書館」と題して開催された研修会では、小学校教諭から大学教授さらには学校司書・ボランティアまで職種・職種を超えた図書館人が集まり研修を深めたことが報告された。苫小牧支部の鈴木祐亮先生からは、学校司書が生き生きと図書館活動を支え盛り上げている様子を紹介、一方で学校図書館に関心を寄せる中学校の先生が不足している現状も報告された。帯広支部の川口珠美先生からは、支部内の図書館活動担当者が分担して年間スケジュールを進めている現状が報告された。十勝地区の増岡英寿先生からは、支部内のメンバーの高齢化、支部が広域であるための諸会議・諸活動の制約、さらには活動メンバーの減少など深刻な現状が報告された。最後に十勝地区高等学校の戸川貴之先生からは、地区内各高等学校が総会、各種研修会などを分担しながら進めている状況が報告された。



来年度の旭川大会に向けた大きな構想や、道内各支部の最新の活動状況を相互に交流することができた2日間であった。

(文責 北海道学校図書館協会 総務部長 村山知成)

北海道子どもの本のつどい砂川大会の報告

砂川大会実行委員長 古 関 亮 子

去る7月15日(日)、16日(月)に砂川市で開催されました。1978年の第1回札幌大会から数え、41回目でした。砂川で初めての大会で、地域の人たちと子どもの本を通してつながることができたらと、テーマを「結～伝えることば つながる心～」としました。

一日目の講演は、「いのちのいろえんぴつ」、やなせたかしさんの絵本の原作などをされたこやま峰子さんとアニメーションで高名な佐藤広也さんとの対談でした。平和を願って世界の子どもたちを見守っているあたたかいまなざしが、様々なエピソードから伝わってきました。佐藤広也さんのコーディネートが絶妙で楽しい雰囲気の中で、平和への強いメッセージを感じることができました。

二日目の分科会は、七つ設置しました。第一分科会は「かがく絵本とアクティビティ」、第二分科会は「ビブリオバトル」、第三分科会は「やってみようアニメーション」、第四分科会は、「おはなしまるごと楽しもう!!」、第五分科会は「〈あいたかったよ〉峰子ワールドに～こやまさんを囲んで～」、第六分科会は「語りの部屋」、第七分科会は「創作」でした。地域の実行委員がどんなことばで伝えるか考えての内容でした。また、職種によって分科会が限定されることがないようにということも考えました。どの分科会の参加者の方からも、参考になった、楽しかった、地域に帰って広めたいとお言葉をいただきました。



このつどいの開催が、子どもたちがこれから生きていく上で困難なことに会っても本や人とのつながりが生きる喜びを見つけることにつながればと願っています。

この開催に当たり、北海道学校図書館協会の方々には、チラシを配布していただいたり、要項をメールで回していただいたり、実際に多くの方々足を運んでいただきました。本でつながった仲間の力強いお心添えに支えられました。ありがとうございました。

北海道学校図書館研究大会旭川大会

2019年10月4日(金)～5日(土)開催

～多くの皆様のご参加をお待ちしております！～

旭川支部では、第43回北海道学校図書館研究大会旭川大会の開催に向けた取組を平成30年度の年間計画に位置付け、現在、関係者が一丸となって準備を進めています。この間、札幌市との引き継ぎにより、多くのご苦労が詰められた資料をいただいております、心より敬意を表する次第です。

具体的な準備活動といたしましては、本年7月と9月に、大会運営委員会を開催しております。この中では、大会組織の立ち上げをはじめ、大会の日時・日程、会場の決定、記念講演講師のほか授業者・提言者の検討などに頭を悩ませながら、協議を進めているところです。

また、研修活動におきましては、この8月に「知って活かそう！学校図書館」と題した研修会を開催するなど、旭川市の小・中学校、高等学校で学校図書館に携わる教職員を対象としてスキルアップを図っております。



研究部では、研究主題や研究の重点について話し合いを繰り返しています。大会に向けて、学校図書館のセンター機能を再確認するほか、特別支援教育における利活用、学校司書や司書教諭など学校図書館スタッフの協働、家庭や地域、公共図書館との連携などを視野に入れ、研究の方向性を焦点化してまいります。さらに、セッションでは、旭川らしさにも注目していただけるよう、準備を進めてまいります。

9月22日～23日に行われた全道研究部長会議におきましては、旭川大会の概要について説明する機会をいただき、ご参会の皆様から多くの貴重なご助言をいただいたところです。今後、各支部におかれましては、提言者や司会者、助言者等の決定についてご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

豊かな自然と都市機能が調和する都市旭川から、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

文責：北海道学校図書館研究大会旭川大会事務局長 石ヶ森 孝順
(旭川市立西御料地小学校 校長)

第30回読書感想画コンクール・第6回全道コンクール募集要項

- 1 主催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書 (推薦「北海道青少年のための200冊」) (2) 指定読書 (主催者が指定した図書)
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 平成30年12月25日(火)
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒
満20歳以下に限る。(1998年4月2日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。
(ワク貼りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下(8つ切～4つ切)とする。
※絵具は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。(用紙は中央コンクール応募要項のものを使用) ※作画感想は原則として自筆とする。
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・ビデオ・DVD等の場面をまねたものは審査の対象としない。
- 7 応募に当たって
※一人で自由読書・指定読書それぞれ各1点応募できる。
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ☎060-8643 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日新聞社北海道支社
『第30回読書感想画コンクール・第6回全道コンクール』係
電話011-281-5252 FAX011-251-3551
- 9 審査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3年)の部 ②小学校高学年(4・5・6年)の部
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞
①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞
2) 学校賞～上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校の中で優秀と認められる学校
※各部位上位各4点(自由2点・指定2点)、合計16点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。

	◎指定図書(書名)	著者名	出版社	価格(税別)
小学校 低学年	きらわれもののこがらしぼうや	仁科 幸子 (作・絵)	PHP 研究所	1,100円
	とうふやのかんこちゃん	吉田 道子 (文) 小林 系 (絵)	福音館書店	1,300円
	フランクリンの空と本屋さん	ジェン・キャンベル (ぶん) ケイティ・ハーネット (え) 横山 和江 (やく)	B L 出版	1,600円
	さとやまさん	工藤 直子 (文) 今森 光彦 (写真)	アリス館	1,500円
小学校 高学年	あした飛ぶ	東田 澄江 (作) しんや ゆう子 (絵)	学研プラス	1,400円
	しだれ桜のゴロスケ	熊谷 千世子 (作) 竹熊 ゴオル (絵)	文研出版	1,300円
	ぼくらの原っぱ森	ジュリア・グリーン (作) 杉田 七重 (訳) スカイエマ (絵)	フレーベル館	1,400円
	救助犬エリーの物語	W・ブルース・キャメロン (作) 西本 かおる (訳)	小峰書店	1,400円
中学校 ・ 高等学校	100年の木の下で	杉本 りえ (著) 佐竹 美保 (画)	ポプラ社	1,400円
	ヒトラーと暮らした少年	ジョン・ボイン (著) 原田 勝 (訳)	あすなる書房	1,500円
	キツネのボックス : 愛をさがして	サラ・ベニーバッカー (作) ジョン・クラッセン (絵) 佐藤 見果夢 (訳)	評論社	1,500円
	極北へ	石川 直樹 (著)	毎日新聞出版	1,600円
中学校 学校	正義の声は消えない : 反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たち	ラッセル・フリードマン (著) 渋谷 弘子 (訳)	汐文社	1,500円

平成30年度 北海道の先生がおすすめる本

北海道指定図書

小学校低学年の部



いろいろ はっぴ

小寺 卓矢 / 写真・文
アリス館 定価1,400円+税
まる、さんかく、ハート…たのしい葉っぱがたくさん登場！さいごは、みんな枯れて土になり、つぎの葉っぱの準備をするよ。



シマフクロウのぼこ

志茂田 景樹 / 文 木島 誠悟 / 絵
ポプラ社 定価1,380円+税
実在する障害のあるシマフクロウの「ちび」をモデルに、野生動物と人間とが共生するにはどうしたらいいかを考える絵本。



いろいろ いっぱい

ちぎゅうの さまざまな いきもの
ニコラ・デピス / 文 エミリー・サットン / 絵
越智 典子 / 訳 ゴ布林書房 定価1,500円+税
地球は生きものであふれていて、そのすべてが(もちろん、わたしたち人間も)複雑に結びついていることを伝える科学絵本。



あめのひ

サム・アッシャー / 作・絵 吉上 恭太 / 訳
徳間書店 定価1,600円+税
朝からの雨がやとやんで、おじいちゃんとお出かけと…？雨を楽しむ気持ちをいねいに描く、ファンタジックな絵本。

小学校中学年の部



キワさんのたまご

宇佐美 敦子 / 作 藤原 ヒロコ / 絵
ポプラ社 定価1,200円+税
夏休み、養鶏を営むキワさんに出会ったサトシ。キワさんの「まぼろしのたまご」がはしくなるが…。少年の成長を描く物語。



はたらく

長倉 洋海 / 写真・文
アリス館 定価1,400円+税
山で羊を育てる少年、両親のかわりに市場で野菜を売る少女。世界各地で出会った子どもたちは、助け合い、生きる力にあふれていた。



さらわれたチンパンジー

愛蔵版 野生どうぶつを救え！本当にあった涙の物語
ジェス・フレンチ / 著 嶋田 香 / 訳
汐文社 定価1,500円+税
赤ちゃんチンパンジーのシノワーズは密猟者に捕まりペット屋台に売られてしまう…。彼が救出され、幸せになるまでを描く感動実話！

小学校高学年の部



幽霊ランナー

岡田 潤 / 作
金の星社 定価1,300円+税
幽霊ランナーと呼ばれる優。人知れず現れる中学生ランナーに指導を受け、走法が変わっていく。そしてマラソン大会がやってくる。



世界を救うパンの缶詰

菅 聖子 / 文 やました こうへい / 絵
ほるぷ出版 定価1,400円+税
阪神淡路大震災の被災者からの声をきっかけに生まれた、3年経ってもおいしい非常食「パンの缶詰」。開発した町のパン屋さんのお話。



あした飛ぶ

東田 澄江 / 作 しんや ゆう子 / 絵
学研 定価1,400円+税
ある日、星乃は、はねに星マークが描かれた蝶をつかまえた。遠い場所に住む二人の気持ちをつなぐものは…。

中学校の部



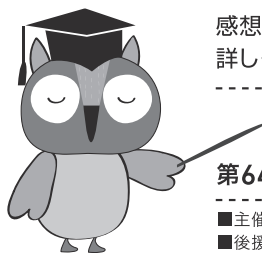
14歳の世渡り術 栗山魂

栗山 英樹 / 著
河出書房新社 定価1,300円+税
一度たりともあきらめなかった。夢はかなえるためにある。栗山監督が自分の人生を通して伝えたかった努力の大切さ。



ひらけ蘭学のとびら

『解体新書』をつかった杉田玄白と蘭方医たち
鳴海 風 / 著 関屋 敏隆 / 画 岩崎書店 定価1,500円+税
杉田玄白と解体新書を題材にした歴史小説。幼少期から解体新書刊行までの物語。困難を乗り越える大切さを伝えたい。



感想文は夏休み明けに、学校に出してください。
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

北海道学校図書館協会 検索

北海道の本を読みましょう!

第64回 青少年読書感想文全道コンクール 第44回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催 / 北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社

■後援 / 北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力 / 北海道読書推進運動協議会

第51回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催 ●北海道学校図書館協会
後援 ●北海道教育委員会 札幌市教育委員会
趣旨 ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ●平成31年1月8日(火)～10日(木)
会場 ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100
 ●札幌市立新琴似北小学校
 ●札幌市立発寒中学校
 ●札幌市中央図書館

参加資格 ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ●150名

参加費 ●4,000円(資料代を含む)
参加申込 ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、12月3日(月)～12月14日(金)の期間内に以下のどちらかでお申し込みください。
 <インターネットでのお申し込み>北海道学校図書館協会ホームページの「北海道学校図書館研修講座」から研修参加申込書をダウンロードし、必要事項を入力して申し込み用アドレスへ送信してください。
 <FAXでのお申し込み>インターネットでのお申し込みが難しい場合、研修講座参加申込書に必要事項を記入してFAXにてお申し込みください。
 申込先 FAX(011) 661-3751
 札幌市立宮の丘中学校 浅村 麻姫子

A. 共通講座
講演 「『主体的・対話的で深い学び』と学校図書館～すべての子どもたちに学びを～」
 専修大学文学部 教授 野口 武悟

- B. 選択講座：ファーストコース**
1. 講義 「管理・運営」
札幌市立元町北小学校 司書教諭 赤平 沙絵
 2. 講義 「図書館活動」
北海道札幌西陵高等学校 教諭 加藤 孝志
 3. 講義 「読書指導」
江別市立第二小学校 司書教諭 井上 陽子
 4. 講義 「情報・メディアを活用する学び方の指導」
札幌市立上白石小学校 司書教諭 山田 佳子

C. 選択講座：ステップアップコース

1. 講義・実習 「楽しく進める『学び方の指導』各論その2～レポートを作ろう～」
(公社)全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子
2. 講義・実習 「ステップアップ・読書アニメーション」
札幌市立栄小学校 司書教諭 佐藤 広也
3. 講義・実習 「朗読を楽しもう」
元HBCアナウンサー・朝日カルチャー講師 安藤 千鶴子
4. 講義・実習 「読書会をひらこう！」
帯広市立川西中学校 教諭 川口 珠美
5. 講義・実習 「一日まるごとクリニック」
旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤 直子
6. 講義・実習 「図書館資料の収集とその整理」
札幌聖心女子学院中学校・高等学校 司書 新田 裕子
7. 講義・実習 「レファレンスの基本」
札幌市中央図書館 利用サービス課 調査相談係
芝木 桂子 笹本 まゆみ 川口 歩
8. 交流・討議 「学びあって力を高める！学校司書の状況交流」
札幌市立宮の丘中学校 札幌市立新陵中学校 学校図書館司書 浅村 麻姫子
9. 講義・実例紹介 「選書のポイント 教えます」
北海道学校図書館協会 選定部

D. 校種別選択講座

1. 討議 「図書館資料の活用とその指導～小学校」
苫小牧市立澄川小学校 司書教諭 高取 有子
2. 討議 「図書館資料の活用とその指導～中学校・高等学校」
旭川市立愛宕中学校 教諭 武井 翔
3. 討議 「図書館資料の活用とその指導～特別支援」
北海道小樽高等支援学校 実習指導助手 兼務 学校図書館司書 小野 薫

E. ナイター

1. こんな本あるよ！
2. 楽しんでよむ、みる英語絵本
3. 出版社資料室 裏話

F. 指導者研修講座（全道研究部長会）

1. 第43回北海道学校図書館研究大会(旭川大会)について
2. 支部研究交流
各支部研究部長
北海道学校図書館協会研究部長 山田 佳子 (札幌市立上白石小学校 司書教諭)
北海道学校図書館協会事務局長 渡部 浩士 (札幌市立稲積中学校 校長)

～研修日程～

1月8日(火)〈かでの2・7〉〈札幌市立発寒中学校〉

9:30	10:00	10:25	12:00	13:15	13:30	14:40	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B1. 管理・運営	B2. 図書館活動				E1. こんな本
				C1. 学び方の指導各論(発寒中)					E2. 英語絵本
				C2. アニメーション					E3. 裏話
				F1. 研究部長会					

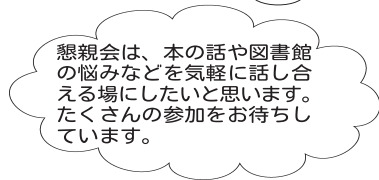
※受付は4階大会議室で行います。直接お越しください。

1月9日(水)〈かでの2・7、札幌市立新琴似北小学校、札幌市中央図書館〉

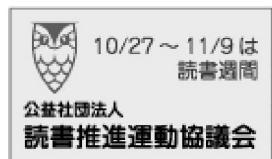
9:30	12:00	13:15	13:30	14:45	16:30	18:00
C3. 朗読	昼食	B3. 読書指導	B4. 学び方の指導			懇親会
C4. 読書会		C7. レファレンス(中央図書館)				
C5. クリニック(新琴似北小)		C5. クリニック(新琴似北小)				
C6. 資料収集と整理		C8. 学校司書				
F2. 研究部長会		C9. 選書				

1月10日(木)〈かでの2・7〉

9:30	11:30	11:50
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中・高〉	閉講式	
D3. 討議〈特別支援〉	閉講式	



学校図書館情報



◆「ホッと一息 本と一息」
2018年 第72回 読書週間
10月27日(土)～11月9日(金)



今年の標語は、「ホッと一息 本と一息」です。作者の沢田真紀さんは、「忙しい日常のひとつ、5分でも10分でも本を読んでいる間は本と自分だけの時間。つついきりがつけられず、ホッとしゃばなしになるのが玉にきず……わたしの大切な時間です。」と語っています。また、ポスター

イラストをつくった、さとうみずずさんは「本を開けば瞬時にその世界が広がって、いまいる場所が特別な空間になります。そして物語に没頭できる喜びや安心感を与えてくれます。本とともに、あたたかい時間を味わっていただけますように。」とコメントしています。

◆第6回学校図書館協会

inオホーツク研修会のお知らせ

- ・日時 11月22日(木)13:00～23日(金・祝)12:15まで
- ・場所 網走市立第一中学校 (1日目)
網走市立潮見小学校 (2日目)
- ・講師 浅村麻姫子氏 (札幌市立中学校 学校司書)
- ・参加費2,000円 (会員の方1000円)
- ・夕食費、宿泊費は別途徴収です。
- ・問い合わせ 美幌町立美幌小学校 添田佐奈枝まで (0152-73-2019)

【1日目 22日(木)】会場：網走市立第一中学校

13:00	13:10	14:30	17:00	18:30	20:30
受付	開会	〈研修1〉 実践報告 交流会	〈研修2〉 講師：浅村麻姫子 さん	移動	夕食 ナイトー

【2日目 23日(金)】会場：網走市立潮見小学校

8:40	9:00	12:00	12:15
受付	〈研修3〉 ①「理科読」を体験しよう 上島幸子 ② 学校図書館を飾ろう(仮題) 浜田芽子	閉会	

事務局

事務局長 渡部 浩 士 (札幌市立稲積中学校)
事務局校 札幌市立稲積中学校
〒006-0814 札幌市手稲区前田4条5丁目2-1
TEL 011-684-1430 FAX 011-684-5738

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆新刊紹介「学校図書館ガイドライン」

活用ハンドブック

堀川照代・編著 悠光堂 発行

定価1,500円(税別) ISBN : 978-4-909348-09-8

2016年11月に文部科学省より発表された、「学校図書館の整備充実について(通知)」に添付された「学校図書館ガイドライン」は、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示したものであり、全国的な学校図書館の指針となるものです。本書は、この「学校図書館ガイドライン」を現場



での実践に反映するための解説書になります。「学校図書館ガイドライン」本文中の重要なキーワードの解説に加え、その章や節に即した整備段階のステップアップ表も記載、また巻末では全国の学校図書館の取り組み事例や、運営に関わる指針・報告書なども紹介されています。現場で実践をする司書教諭や学校司書だけでなく、学校図書館運営に携わる方々にも手に取っていただきたい一冊です。

編集後記

朝夕めっきり冷え込むようになり、いよいよ秋が深まってまいりましたが、皆さまお変わりございませんでしょうか。本号は、まだまだ地震の影響が懸念される中、各地で開催された様々な大会・行事についてお知らせしています。読書週間に入りました。子どもと本を、より一層近づける実践を積み上げていきたいものです。

(編集：村山 知成 杉本 操 野村 邦重)
大久保雅人 渡部 浩士

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>